

經濟論叢

第167卷 第3号

渡邊 尚教授記念號

献 辞	本 山 美 彦	
大戦間期ドイツ電機工業における 流れ作業の導入と展開	今 久 保 幸 生	1
両大戦間期ドイツにおける 工作機械工業の地域構造	幸 田 亮	23
救貧法から相互扶助へ	廣 重 準 四 郎	43
日本の工作機械メーカーにおける 製品開発システム	小 林 正 人	60
北タイにおける在米織物業の発展と その生産形態について	上 田 曜 子	89
中小企業の変質とその競争力	蘇 顯 揚	108
スコットランドの綿工業の発展過程	林 妙 音	130
貧困削減政策の実効性に関する一考察	大 平 剛	146

渡邊 尚 教授 略歴・著作日録

平成13年 3 月

京 都 大 學 經 濟 學 會

渡邊 尚教授 略歴

昭和12年5月30日 京都市澁野川区（現、東京都北区）西ヶ原町515番地に生まれる

学 歴

昭和19年4月 東京都牛込区（現、新宿区）立早稲田小学校入学
昭和19年10月 空襲を避けて杉並区西部に転居。東京都杉並区立桃井第四小学校転学
昭和20年2月 長野県北佐久郡軽井沢町追分に縁故疎開。軽井沢町第三国民学校転学
昭和20年10月 空襲を免れた杉並の家に戻り、桃井第四小学校再転学
昭和25年3月 同小卒業
昭和25年4月 東京学芸大学・東京第二師範学校付属小金井中学校入学
昭和28年3月 同中卒業
昭和28年4月 東京都立西高等学校入学
昭和29年4月 肺浸潤のため休学。自宅療養
昭和30年4月 同高復学
昭和32年3月 同高卒業
昭和33年4月 東京大学教養学部文科一類入学
昭和35年4月 同大学経済学部進学
昭和37年3月 同上卒業
昭和37年4月 東京大学大学院社会科学部研究科修士課程理論経済学・経済史学専攻（西洋経済史）入学（松田智雄教授に師事）
昭和39年3月 同上修了（経済学修士）
昭和39年4月 同上博士課程進学
昭和41年9月 同上休学 DAAD（ドイツ学術交流会）奨学生としてドイツ連邦共和国ケルン大学留学（Prof. Dr. Hermann Kellenbenz に師事。昭和44年11月まで在籍。奨学金は昭和43年10月まで）
昭和44年12月 帰国。東京大学大学院経済学研究科博士課程理論経済学・経済史学専攻（西洋経済史）復学（休学中に研究科制度変更）
昭和45年3月 同上単位取得退学
昭和62年3月 京都大学経済学博士

職 歴

昭和43年11月 ドイツ連邦共和国ミュンスター大学東アジア教室非常勤講師（日本学担当：昭和44年7月まで）

昭和45年4月 日本学術振興会奨励研究員（研究従事機関 東京大学経済学部 昭和46年3月まで）

昭和46年12月 北海道大学経済学部助教授（経営史担当）

昭和50年4月 京都大学経済学部助教授（工業経済論担当）

昭和61年3月 ボン大学（同3月～9月）、ミュンヘン大学（同10月～11月）、ベルリン自由大学（同12月～昭和62年1月）、各客員教授

昭和61年7月 京都大学経済学部教授（経済政策論担当）

平成3年4月 京都大学評議員（平成5年3月まで）

平成9年4月 京都大学大学院経済学研究科教授（制度変更による）

平成10年4月 京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長（平成11年3月まで）

平成11年4月 京都大学経済学部経済学科長

平成13年3月 京都大学停年退官

学外非常勤講師

ミュンスター大学、小樽商科大学、札幌大学、東北大学、筑波大学、龍谷大学、天理大学、広島大学

所 属 学 会

土地制度史学会（昭和40年～、評議員：昭和52年～）

経営史学会（昭和46年～、評議員：昭和54年～昭和60年、理事：昭和60年～平成元年、平成3年～平成5年、常任理事：平成5年～平成7年）

社会経済史学会（昭和51年～、評議員：昭和56年～平成6年、理事：平成7年～）

日本 EU 学会（昭和63年～）

鉄道史学会（平成元年～）

アジア政経学会（平成10年～）

Verein für Geschichtliche Landeskunde der Rheinlande（昭和43年～）

Gesellschaft für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte（昭和46年～）

渡邊 尚 教授 著作目録

一 著書、編書

- 1 ラインの産業革命—原経済圏の形成過程— 東洋経済新報社 xi+274ページ 昭和62年
(単著, 京都大学経済学博士学位取得論文)
- 2 シンポジウム・日本とドイツの外国人労働者 明石書店 273ページ 平成3年
(宇塚和彰・中尾宏・R. ルプレヒトとの共編, 平成2年11月17~18日京都ドイツ文化センターで開催されたシンポジウム(主催, 同センター)の記録, 共同司会者の一人として総括的「あとがき」(261-268ページ)を執筆)
- 3 ドイツ経済の歴史的空間—関税同盟・ライヒ・プント— 昭利堂 xiii+292ページ 平成6年
(諸田實・松尾展成・柳澤治・小笠原茂・E. シュレンマー(ドイツ社会経済史学会会長[当時])との共著, 事実上の執筆者代表として「まえがき」(i-ixページ)および第4章「ラントとプント—西ドイツ政治・経済空間の形成過程」(177-272ページ)を執筆)
- 4 現代ヨーロッパ経営史—「地域」の視点から— 有斐閣 xiv+350ページ 平成8年
(作道潤との共編著, 責任編者として第1章「現代ヨーロッパの企業行動と地域経済の精神—本書の課題と方法—」(1-66ページ)および第3章「ライン河流域経済圏の企業発展」(105-160ページ:ハニエルとタイムラー・ベントの事例研究)を執筆)
- 5 型の試練—構造変化と日独経済— 信山社 xviii+275ページ 平成10年
(W. クレナーとの共編, 平成8年3月26~28日に東京で開催された第11回日独経済学・社会科学シンポジウムの記録。直前に急逝した松田智雄を継いで日本側代表者となり, 「まえがき」(i-xiiiページ)を執筆)
- 6 ヨーロッパの発見—地域史のなかの国境と市場— 有斐閣 xvi+361ページ 平成12年
(編著, 5人の執筆者の編集責任者として「はしがき」(i-viページ), 序章「ヨーロッパと地域」(1-56ページ), 補論「『地域』とは何か」(342-361ページ), および第5章「越境する地域—ライン河流域—」(279-340ページ)を執筆)
- 7 *Processes of Globalization and Regional Dynamics*, Berlin et al., Springer 2001
(Wolfgang Klennerとの共編著, 平成11年11月19~22日にボーフムで開催された第12回日独経済学・社会科学シンポジウムの記録。個人報告として Fallstudie über die Gleichzeitigkeit der Krisen in Japan und Korea: Geschichtliche Gegebenheit als ein destabilisierendes Element を執筆)

二 論文 (いずれも単著)

- 1 産業革命期ライン・ヴェストファーレンにおける社会的分業の展開—国内市場のドイツ的形態に関する一試論— 土地制度史学 第32号 昭和41年7月
14-42ページ
- 2 「M. Gladbach 商業会議所年次報告」分析 (1838-1861)—ラインのマンチェスターは, 何をどこから買い, 何をどこへ売ったか— 土地制度史学 第47号 昭和45年4月
31-46ページ

- | | | | |
|----|---|--|-----------------|
| 3 | Brügelmann 工場とドイツ産業革命 | 社会経済史学 第36巻第6号
60-88ページ | 昭和46年3月 |
| 4 | 19世紀半 Kr. Lennep (Rheinland) の産業構造—ドイツ産業革命の特質解明のために— | 土地制度史学 第51号
25-52ページ | 昭和46年4月 |
| 5 | ドイツ資本主義と地帯構造 | 大野英二・住谷一彦・諸田實編『ドイツ資本主義の史的構造—松田智雄教授還暦記念論文集I』有斐閣 151-171ページ | 昭和47年3月 |
| 6 | Die Wuppertaler Untenehmer in den Dreißigen Jahren des 19. Jahrhunderts—Eine Analyse des Adreßbuches von 1833 unter besonderer Berücksichtigung des Verhältnisses zwischen Baumwolle und Seide— | Hokudai Economic Papers, Vol. 3, pp. 125-160 | 昭和47/48年 |
| 7 | フッパターナルの「商人」—社会的分業の推進者たち— | 経営史学 第9巻第2号
1-27ページ | 昭和49年11月 |
| 8 | From Werkstatt to Fabrik | The Kyoto University Economic Review, Vol. XLV, No. 1-2, pp. 23-42 | 昭和50年
4・10月 |
| 9 | 仕事場から「工場」へ—「ラインラント・ベストファーレン公認住民録(1833)」分析(1)— | 経済論叢 第116巻第5・6号
18-61ページ | 昭和50年
11・12月 |
| 10 | 1870年代におけるドイツ資本主義の産業構造 | 西洋史研究 新輯第5号
142-152ページ | 昭和51年 |
| 11 | 羊毛から綿へ—「ラインラント・ベストファーレン公認住民録(1833)」分析(2)— | 経済論叢 第119巻第3号
1-26ページ | 昭和52年3月 |
| 12 | マヌファクトゥア・ファブリーク・ラボラトリーウム—J.M. ロイクス『商業の体系』(第2版, 1817年)より— | 経済論叢 第119巻第6号
1-19ページ | 昭和52年6月 |
| 13 | 地域と経済空間—都市と国家, あるいは市場人と工場人— | 神里公・清成忠男・正村公宏編『経済学のフロンティア』(『講座現代経済思潮』第4巻) 東洋経済新報社 101-123ページ | 昭和53年8月 |
| 14 | ライン商業会議所の成立過程—ケルンの事例を中心に— | 経営史学 第14巻第3号
1-33ページ | 昭和55年2月 |
| 15 | ライン西インド会社の難破 産業革命期ラインラント・ベストファーレンの貿易構造に関するノート— | 北海道大学・経済学研究 第30巻第1号 215-237ページ | 昭和55年3月 |
| 16 | Die Industrielle Revolution in Japan und Deutschland: Ein Vergleich | Jürgen Schneider (Hrsg.), <i>Wirtschaftskräfte und Wirtschaftswege, V: Festschrift für Hermann Kellenbenz</i> , Stuttgart, Klett-Cotta, S. 377-389 | 昭和56年 |

- | | | | |
|----|---|--|---------------|
| 17 | ライン西インド会社の経営構造—社益と地益のはざままで— | 社会経済史学 第47巻第3号
1-26ページ | 昭和56年10月 |
| 18 | 富士電機成立過程の試論的分析 | 十屋守章・森川英正編『企業者活動の史的研究—中川敬一郎先生還暦記念』日本経済新聞社 213-232ページ | 昭和56年11月 |
| 19 | ドイツ産業革命と輸送—西部ドイツ経済圏を中心として | 社会経済史学 第48巻第5号
84-101ページ | 昭和58年2月 |
| 20 | 1833年住民録によるケルン市職業統計の分析—原基的工業化か本源的蓄積か— | 安場保吉・斎藤修編『数量経済史論集3—プロト工業化期の経済と社会—国際比較の試み—』日本経済新聞社 63-98ページ | 昭和58年4月 |
| 21 | いわゆる「植民地物産」について—本源的蓄積の商品史的検討(1)— | 経済論叢 第132巻第1・2号
22-47ページ | 昭和58年
7・8月 |
| 22 | いわゆる「植民地物産」について—本源的蓄積の商品史的検討(2)— | 経済論叢 第133巻第1・2号
1-31ページ | 昭和59年
1・2月 |
| 23 | A History of the Process Leading to the Formation of Fuji Electric | <i>Japanese Yearbook on Business History</i> (1), pp. 47-71 | 昭和59年 |
| 24 | ライン西インド会社の貿易活動—対ハイティ・メキシコ輸出を中心に— | 社会経済史学 第50巻第3号
1-34ページ | 昭和59年10月 |
| 25 | いわゆる「植民地物産」について—本源的蓄積の商品史的検討(3)— | 経済論叢 第135巻第1・2号
20-43ページ | 昭和60年
1・2月 |
| 26 | いわゆる「植民地物産」について—本源的蓄積の商品史的検討(4)— | 経済論叢 第136巻第1号
35-60ページ | 昭和60年7月 |
| 27 | Gründungsjahre der Rheinkammerunion—Unter besonderer Berücksichtigung der Industrie- und Handelskammer zu Köln (1)— | <i>The Kyoto University Economic Review</i> , Vol. LVII, No. 2, pp. 1-28 | 昭和62年10月 |
| 28 | Gründungsjahre der Rheinkammerunion—Unter besonderer Berücksichtigung der Industrie- und Handelskammer zu Köln (2)— | <i>The Kyoto University Economic Review</i> , Vol. LVIII, No. 2, pp. 18-50 | 昭和63年10月 |
| 29 | 富士電機の創立過程—第二・三段階を中心に— | 中川敬一郎編『企業経営の歴史的研究—脇村義人先生卒寿記念—』岩波書店 263-283ページ | 平成2年11月 |
| 30 | 「東西較差」と「南北較差」—ドイツ的経済空間の史的構造— | 田中豊治・柳澤治・小林純・松野尾裕編『近代世界の変容—ウェーバー・ドイツ・日本—住谷一彦先生記念論集1』リプロポート 39-64ページ | 平成3年9月 |
| 31 | 西ヨーロッパ商工会議所連合創設40周年記念シンポジウム報告 | 調査と研究 創刊号
1-61ページ | 平成3年10月 |
| 32 | ライン-マイン-ドーナウ諸契約 | 調査と研究 第9号
1-25ページ | 平成7年10月 |

- 33 German Unification and the Effects on Central and Eastern Europe II. Hax, W. Klenner, W. Kraus, T. Matsuda, T. Nakamura (eds.), *Economic Transformation in Eastern Europe and East Asia: A Challenge for Japan and Germany*, Berlin et al., Springer, pp. 91-111 平成7年
- 34 資本循環と資本類型—経済政策類型論の構築のために— 経済論叢 第157巻第1号 平成8年1月
1-28ページ
- 35 ライン-マイン-ドーナウ株式会社の成立と活動—連邦制度の下での「公益団体」— 経営史学 第31巻第1号 平成8年4月
1-41ページ
- 36 デュースブルク-ルールオルト港株式会社 (Hafag) の成立過程 森川英正・由井常彦編『国際比較・国際関係の経営史』名古屋大学出版会 305-323ページ 平成9年
- 37 越境する地域—エウレギオと原経済圏— 国民経済雑誌 高橋秀行博士記念号 第180巻第4号 平成11年10月
59-73ページ
- 38 近代ヨーロッパにおける海と陸との変容 川勝平太・濱下武志編『海と資本主義』東洋経済新報社 平成13年3月
刊行予定
- 39 Can we Learn from the Experiment for Cross-border Regional Cooperation in Europe? 国立台湾大学経済学系『張漢裕教授記念研究会報告集』台北 平成13年
刊行予定
- 三 史料紹介, 書評, 学界動向 (いずれも単著)
- 1 学界動向 ドイツ産業革命論に関する覚書 (一) 歴史学研究 No. 307 昭和40年12月
38-43ページ
- 2 学界動向 ドイツ産業革命論に関する覚書 (二) 歴史学研究 No. 308 昭和41年1月
27-33ページ
- 3 書評 川本和良『ドイツ産業資本成立史論』未来社, 昭和46年 土地制度史学 第56号 昭和47年7月
61-64ページ
- 4 資料紹介 G. アーデルマン編『1836年ライン州鉱工業事情・地区別統計』北海道大学・経済学研究 第23巻第3号 247-267ページ 昭和48年11月
- 5 学界動向 西ドイツ経営史学の一動向—「ライン・ベストファーレン経済史料館」の活動を中心に— 経営史学 第8巻第2号 昭和49年2月
93-98ページ
- 6 書評論文「歴史」と「政策」の間にあるもの—熊谷・肥前・柳澤三氏の所説の検討— 土地制度史学 第64号 昭和49年7月
61-68ページ
- 7 書評 凜照彦『日本帝国主義下の台湾』東京大学出版会, 昭和50年 経済論叢 第117巻第1・2号 昭和51年
111-117ページ 1・2月

- 8 学界動向 産業革命と「ドイツ資本主義」—われわれは「ドイツ産業革命」をいかに捉え直すか— 社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣 65-73ページ 昭和51年3月
- 9 学界動向 日独経営史会議に出席して 経営史学 第14巻第2号 54-66ページ 昭和54年10月
- 10 書評 岡田与好編『十九世紀の諸改革』木鐸社, 昭和54年 史学雑誌 第90編第11号 77-83ページ 昭和56年11月
- 11 書評 Dielendorf, Jeffry M., *Businessmen and Politics in the Rhineland, 1789-1834*, Princeton University Press, 1980 経営史学 第17巻第2号 106-110ページ 昭和57年7月
- 12 学界動向 第二期経営史国際会議 経営史学会編『経営史学の二十年—回顧と展望—』東京大学出版会 380-383ページ 昭和60年
- 13 報告書 西ドイツにおける資本蓄積速度の変化—フランツ・ヤーノシの「復元仮説」をめぐる— 昭和59年度科学研究費補助金総合研究(A)「現代労使関係の国際比較研究—企業レベルの実態を中心として—」(課題番号331-2003-58330004, 研究代表者 徳永重良)『研究成果報告書』46-53ページ 昭和60年3月
- 14 書評 高橋秀行『近代ドイツ工業政策史—19世紀プロイセン工業育成振興政策とP. C. W. ボイト—』 国民経済雑誌 第157巻第1号 125-129ページ 昭和63年1月
- 15 書評 諸田實『フッカー家の遺産』有斐閣, 平成元年 週刊東洋経済 115-116ページ 平成元年7月22日号
- 16 書評 石垣信浩『ドイツ鉱業政策史の研究—ルール炭鉱業における国家とブルジョワジー—』御茶の水書房, 昭和63年 土地制度史学 第130号 75-78ページ 平成3年1月
- 17 書評 シドニー・ボラード著, 鈴木良隆・春見壽子訳『ヨーロッパの選択—経済統合への途 1815-1970年—』有斐閣, 平成2年 社会経済史学 第56巻第5号 129-132ページ 平成3年2月
- 18 回顧 若干の回顧的注釈 経済史研究会『1997年シンポジウム報告集: 経済史学の総括と展望—大塚史学を中心に—』33-43ページ 平成10年9月
- 19 書評 ニツ石郁夫『ドイツ地域経済の史的形成—ヴェルテンベルクの農工結合—』勁草書房, 平成9年 土地制度史学 第162号 66-67ページ 平成11年1月

四 解説、辞典、紹介、新聞・雑誌寄稿等

- | | | | |
|----|--|--|---------------|
| 1 | ドイツ社会にみる禁欲と蓄積の精神構造—日本と対照の合理と不合理— | 【月刊エコノミスト】毎日新聞社 53-59ページ | 昭和49年2月 |
| 2 | ドイツにおける企業と社会—流通の優位と資本主義の精神— | 伊東光晴・石川博友・植草益編「世界の企業4 西ドイツの経済と産業」筑摩書房 121-164ページ | 昭和50年11月 |
| 3 | 月報 ルター派の企業家たち | 松田智雄責任編集・解説「中公パックス 世界の名著 23:ルター」中央公論社 1-4ページ | 昭和54年11月 |
| 4 | ドイツ産業革命 | 松田智雄編「西洋経済史」青林書院新社 227-234ページ | 昭和57年4月 |
| 5 | 平凡社大百科辞典
(ドイツ経済史担当として、ウエストファーレン、エッセン、デュースブルク、ドルトムント、ノルトライン・ウエストファーレン、ブッパータール、ボーフム、メンヘングラトバハ、リッペ、ルール等の項目を執筆) | 平凡社 | 昭和59・60年 |
| 6 | 都市人類型と都市空間 | 都市問題 第75巻第10号 26-38ページ | 昭和59年10月 |
| 7 | 文化交流の経済的意味 | 日独文化研究所「第5回国際文化交流フォーラム:シンポジウム「文化交流の意味」」21-34ページ | 平成2年1月 |
| 8 | 産業革命 3 ドイツ | 大阪市立大学経済研究所編「経済学辞典」(第3版) 岩波書店 533-534ページ | 平成4年3月 |
| 9 | 統一後のドイツ経済 | 京都新聞「連載インタビュー ヨーロッパは今」第1回朝刊 | 平成4年
4月2日 |
| 10 | 資本主義、文化闘争の時代 | 日本経済新聞「経済教室」朝刊 | 平成4年
6月12日 |
| 11 | 商工会議所 | 【歴史学事典 1 交換と消費】弘文堂 394-397ページ | 平成6年2月 |
| 12 | 日独経済学・社会科学シンポジウムについて | DAAD 友の会【ECHO】15 37-39ページ | 平成12年3月 |
| 13 | EUにおける地域政策の潮流—越境する地域、後退する中央— | 日本経済研究所「日経研月報」11-19ページ | 平成13年1月 |

五 翻訳

- | | | | |
|---|----------------------------|-----------------------|---------|
| 1 | ヘルマン・ケレンベッツ「企業と企業者」(独文・単訳) | 経営史学 第11巻第3号 50-70ページ | 昭和52年3月 |
|---|----------------------------|-----------------------|---------|

- | | | | |
|---|---|--|------------------------------------|
| 2 | ヨーゼフ・クーリッシュェル (独文・松田智雄監訳, 諸田等と共訳) | 【ヨーロッパ近世経済史】,
II】東洋経済新報社 第3
部第4編「商業および商業
政策・植民地」(I: 285
475ページを担当) | I: 昭和57年
7月
II: 昭和58年
10月 |
| 3 | ジークフリート・フォン・バイアー
「ジーマンス史料館の75年」(独文・
単訳) | 【経営と歴史】日本経営史研
究所 2-13ページ | 昭和59年8月 |
| 4 | ジークフリート・フォン・バイアー
「ジーマンス史料館における文書
管理について」(独文・単訳) | 企業資料協議会ニューズレ
ター 第28号 | 昭和62年
6月5日 |
| 5 | ウイム・ケスター「世界経済的分業
と国際的競争圧力との変化に対する
独日の経済的・社会的基本条件の適
応」(独文・野川忍と共訳) | 渡辺尚・W. クレナー編『型
の試練—構造変化と日独経
済—』信山社 53-69ペー
ジ | 平成10年 |
| 6 | ウィリイ・クラウス「日独の試練とし
ての中ロにおける体制変革過程」(独
文・単訳) | 渡辺尚・W. クレナー編『型
の試練—構造変化と日独経
済—』信山社 119-135
ページ | 平成10年 |

六 学会・シンポジウムにおける報告, コメント, 代表挨拶(以上, いずれも単独),
招待討論, 共通論題司会(共同司会を含む, 自由論題司会は除く)

- 1 報告「ドイツ産業革命期におけるライン綿工業の発展とその問題点」社会経済史学
会第33回全国大会自由論題, 慶応大学, 昭和39年5月。
- 2 報告「ドイツ産業革命論の回顧と展望」ドイツ資本主義研究会第15回例会, 八王子
大学セミナーハウス, 昭和40年7月11日。
- 3 報告「ライン・ヴェストファーレンにおける社会的分業の展開」ドイツ資本主義研
究会第16回例会, 京都大学法経会議室, 昭和40年10月10日。
- 4 報告「産業革命期 Berg 地方の産業構造—ドイツ資本主義の“地域的分散性”をめぐ
って—」土地制度史学会秋季学術大会自由論題, 名古屋大学, 昭和45年10月。
- 5 報告「ハノーファー王国とドイツ関税同盟」土地制度史学会秋季学術大会自由論題,
早稲田大学, 昭和46年9月。
- 6 報告「WuppertalのFabrikanten—産業革命期ライン地方の『綿』と『絹』との関係
について—」ドイツ資本主義研究会第38回例会, 本郷会館, 昭和48年1月28日。
- 7 報告「ブッパータールの商人—社会的分業の推進者たち—」経営史学会第9回大会
自由論題, 神戸商科大学, 昭和48年11月。
- 8 報告「1870年代におけるドイツ資本主義の産業構造」ドイツ資本主義研究会・東北
大学西洋史研究会合同大会統一論題, 青山学院大学, 昭和50年11月16日。
- 9 Comment to Jürgen Kocka, *Entrepreneurship in a Late-comer Country: The Ger-
man Case*, in Keiichiro Nakagawa (ed.), *Social Order and Entrepreneurship: Proceed-
ings of the Second Fuji Conference* (January 5-8, 1975), University of Tokyo Press,
1977, pp. 191-196.

- 10 Comment to Hans Jaeger, Business and Government in Imperial Germany, 1871-1918, in Keiichiro Nakagawa (ed.), *Government and Business: Proceedings of the Fifth Fuji Conference* (January 5-8, 1978), University of Tokyo Press, 1980, pp. 154-156.
- 11 報告「ドイツ商工会議所成立史」経営史学会第14回大会自由論題, 一橋講堂, 昭和53年。
- 12 Comment to Sigfrid von Weiher, The Rise and Development of Electrical Engineering and Industry in Germany in the Nineteenth Century. A Case Study—Siemens & Halske, in Akio Okochi / Hoshimi Uchida (eds.), *Development and Diffusion of Technology—Electrical and Chemical Industries: Proceedings of the Sixth Fuji Conference* (January 5-8, 1979), University of Tokyo Press, 1980, pp. 45-47.
- 13 Comment to Gerhard Egbers, Innovation, Know-how, Rationalization, and Investments in the German Textile Industry during the Period 1871~1935, in Hans Pohl und Wilhelm Treue (Hrsg.), *Innovation, Know How, Rationalization and Investment in the German and Japanese Economies 1868/1871~1930/1980: Proceedings of the German-Japanese Symposium at the Siemens Centre in Berlin, March 20~23, 1979 (Zeitschrift für Unternehmensgeschichte, Beiheft 22)*, Wiesbaden: Franz Steiner, 1982, pp. 257-260.
- 14 コメント「ドイツにおける専門経営者の成立」経営史学会関西西部会大会統一論題「専門経営者の成立」, 阪急グランドホテル, 昭和54年8月1日。
- 15 書評「高橋清四郎『ドイツ商業史研究』御茶の水書房, 昭和52年」ドイツ資本主義研究会(第2次)第4回例会, 本郷会館, 昭和54年11月25日。
- 16 Comment to Fritz Blaich, The Development of the Distribution Sector in the German Car Industry, in Akio Okochi / Koichi Shimokawa (eds.), *Development of Mass Marketing—The Automobile and Related Industries: Proceedings of the Seventh Fuji Conference* (January 5-8, 1980), University of Tokyo Press, 1981, pp. 121-125.
- 17 報告「ライン西インド会社の経営構造」社会経済史学会第49回全国大会自由論題, 東京大学, 昭和55年10月4日。
- 18 Comment to Gerhard Adelman, The Business Climate of the German Cotton Industry, 1850-1914, in Akio Okochi / Shin'ichi Yonekawa (eds.), *The Textile Industry and its Business Climate: Proceedings of the Eighth Fuji Conference* (January 5-8, 1981), University of Tokyo Press, 1982, pp. 126-135.
- 19 Comment to Hans Pohl's paper, in K. Nakagawa / T. Yui (eds.), *Organization and Management 1900-1930: Proceedings of Japan-Germany Conference on Business History at the Kokusai Bunka Kaikan in Tokyo, March 20-22, 1981*, Institute for Business History Japan, 1983. (13, 19の両日独経営史会議の企画, 準備で会長代行として対独折衝を担当)。
- 20 Comment to Gerhard Brandt, Industrial Relations in the Federal Republic of Ger-

- many under Conditions of Economic Crisis, in Tokunaga Shigeyoshi / Joachim Bergman (eds.), *Industrial Relations in Transition: The Cases of Japan and the Federal Republic of Germany* (at Tohoku University, September 27-October 1, 1982), University of Tokyo Press, 1984, pp. 21-23.
- 21 Comment to Shoji Ito, Ownership and Management of Indian Zaibatsu, in Akio Okochi / Shigeaki Yasuoka (eds.), *Family Business in the Era of Industrial Growth—Its Ownership and Management: Proceedings of the Tenth Fuji Conference* (January 5-8, 1983), University of Tokyo Press, 1984, pp. 167-169.
- 22 共同司会（荒井政治と）第1回日米歴史学会議第一部会「18～19世紀のヨーロッパにおける社会経済史的発展の比較研究」京大会館，昭和58年4月1日。
- 23 報告「J. ベックマンの『商品学序説』について」ドイツ資本主義研究会（第2次）第12回例会，専修大学神田校舎，昭和58年12月4日（『ドイツ資本主義研究会会報』No. 2，昭和59年12月2日，2-3ページに要旨掲載）。
- 24 Comment to Wilfried Feldenkirchen, The Export Organization of the German Economy, in Shin'ichi Yonekawa / Hideaki Yoshihara (eds.), *Business History of General Trading Companies: Proceedings of the Thirteenth Fuji Conference* (January 5-8, 1986), University of Tokyo Press, 1987, pp. 332-335.
- 25 司会・解説・通訳 ジークフリート・フォン・バイアー「ジューメンス史料館における文書管理について」第20回企業史料管理研究会，私学会館，昭和62年3月16日（五-4参照）。
- 26 報告「西ドイツ経済の「南北較差」について—Rüdger von Voss u. Karl Friedrich (Hrsgg.), *Das Süd-Nord-Gefälle: gemeinsame Strategien für neue Strukturen*, Stuttgart 1986, の紹介を中心に—」ドイツ資本主義研究会（第2次）第19回例会，専修大学神田校舎，昭和62年6月28日（『ドイツ資本主義研究会会報』No. 4，昭和62年11月29日，14-15ページに要旨掲載）。
- 27 コメント「ライン河航行自由化の展開」社会経済史学会近畿部会夏期シンポジウム共通論題「近代における陸運と海運—鉄道・運河・汽船—」，大阪市立大学文化交流センター，昭和62年8月28日。
- 28 報告「ドイツ経営史における「産業革命」」経営史学会関西部会9月例会，京都産業大学，昭和62年9月26日。
- 29 コメント「比較と対照」経営史学会関西部会大会共通論題「比較経営史—その方法論と課題—」，大阪市立大学文化交流センター，昭和63年8月1日。
- 30 Comment to Toshiaki Chokki, Japanese Business Management in the Prewar Electrical Machinery Industry: The Emergence of Foreign Tie-up-Companies and the Modernization of Indigenous Enterprises, in Takeshi Yuzawa / Masaru Udagawa (eds.), *Foreign Business in Japan before World War II: Proceedings of the Sixteenth Fuji Conference* (January 4-7, 1989), University of Tokyo Press, 1990, pp. 217-219.

- 31 報告「文化交流の経済的意味」日独文化研究所「第5回国際文化交流フォーラム：シンポジウム 文化交流の意味」京都・私学会館，平成元年2月28日（四-7参照）。
- 32 報告「ドイツ経済の統合と分化・再考」ドイツ資本主義研究会（第2次）第24回例会：シンポジウム「ドイツ国民経済の再検討—ドイツ国家，ドイツ国民，ドイツ国民経済—」，立教大学，平成元年12月10日。
- 33 問題提起・報告（綿工業）経営史学会関西部会大会共通論題「地域の経営史—「ドイツ的」市場特性の再検討—」，大阪市立大学文化交流センター，平成2年8月1日。
- 34 共同司会（仲尾宏と）「シンポジウム 日本とドイツの外国人労働者」京都ドイツ文化センター，平成2年11月17-18日（一-2参照）。
- 35 報告「第二次大戦後の西ドイツ経済政策」ドイツ経済研究会例会，通商産業省通商産業研究所，平成4年1月17日。
- 36 報告「西ヨーロッパ商工会議所連合の成立と活動」経営史学会関西部会4月例会，神戸大学，平成4年4月1日。
- 37 報告「ドイツの西ヨーロッパ化と西ヨーロッパのドイツ化」ドイツ資本主義研究会（第2次）第30回例会「シンポジウム：ヨーロッパ統合とドイツ統一」，立教大学，平成4年11月29日（『ドイツ資本主義研究会会報』Nr. 9，平成6年5月，5-6ページに要旨掲載）。
- 38 共同議長（EC委員会第5総局 P. Hatt と）The 4. Workshop “Region and Restructuring” of the 2. Japan-EC International Conference “The Future of Industry in the Global Context”，Essen University，15-19, March 1993.
- 39 コメント「ドイツ電力事業との比較から」経営史学会関西部会大会共通論題「公益事業経営の展開と国家政策—鉄道・電力事業の国営化・国有化過程の国際比較—」，大阪市立大学文化交流センター，平成5年8月2日。
- 40 報告 “Historischer Vergleich der Marktstrukturen Deutschlands und Japans”：Die 10. Deutsch-Japanische Wirtschafts- und Sozialtagung (Leitthema: Wirtschaftliche Transformation in Osteuropa und Ostasien—Herausforderung für Japan und Deutschland—)，Bochum，27-29. September 1993.（日本側代表者：松田智雄）。
- 41 Comment to Werner Abelshauser, Two Kinds of Fordism: On the Differing Roles of the Automobile Industry in the Development of the Two German States, in Haruhito Shiomi/Kazuo Wada (eds.), *Fordism Transformed—The Development of Production Methods in the Automobile Industry: Proceedings of the 21st Fuji Conference* (January 5-8, 1994), Oxford University Press, 1995.
- 42 シンポジウム招待討論 Zweites Werkstattgespräch des Arbeitskreises Verkehrsgeschichte, Deutsche Verkehrswissenschaftliche Gesellschaft e. V., Kölnisches Stadtmuseum & Industrie- und Handelskammer zu Köln, 17-19. Februar 1994.
- 43 報告「近・現代ライン河水運と地域経済—国際河川軸による統合と分化—」第63回社会経済史学会全国大会共通論題「水運と地域経済の発展—交通経済史の新しい地平を

- 求めて」, 神戸大学, 平成6年5月29日。
- 44 シンポジウム招待討論 Die 16. Arbeitstagung der Gesellschaft für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte, "Wirtschaftliche und soziale Integration in historischer Sicht", Schloß in Marburg, 19-22. April 1995.
 - 45 報告「ライン-マイン-ドーナウ株式会社の成立と活動-連邦制度, 地域開発, 公共団体-」第31回経営史学会大会共通論題「国家と企業-規制と組織化の国際比較-」, 大阪学院大学, 平成7年10月1日。
 - 46 シンポジウム招待討論 Japanologisches Institut der Universität Heidelberg, Kolloquium zu dem Thema "Neue Sichtweisen zu Japans Stellung in der Welt-eine Bestandaufnahme fünfzig Jahre nach der Kapitulation", Internationales Wissenschaftsforum der Universität Heidelberg, 15-17. Oktober 1995.
 - 47 代表挨拶 第11回日独経済学・社会科学シンポジウム東京大会, 共通論題「国際的構造変化の時代における日独の役割と課題」, 国際文化会館・東京大学, 平成8年3月26-28日(日本側代表: 渡邊尚)。
 - 48 報告「資本循環と資本類型」イギリス資本主義研究会第107回例会, 大阪商業大学, 平成8年6月29日。
 - 49 報告「原経済圏と本来の経済地域-地域類型論の構築のために-」科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「地域工業化の展開と近代国民経済形成の相互関連に関する比較史的研究(課題番号06301073: 研究代表者 高橋秀行) 第5回研究会招待報告, 東京大学, 平成8年7月28日。
 - 50 シンポジウム招待討論「東南アジアとヨーロッパ: 科学研究費補助金重点領域研究総合的地域研究の手法確立: 研究代表者 高谷好一」, 京都・芝罘会館, 平成8年9月(高谷好一編著『〈地域間研究〉の試み(下)-世界の中で地域をとらえる-』(地域研究叢書8), 京都大学学術出版会, 平成11年8月, 「総合討論: ヨーロッパ世界と東南アジア世界」191-232ページに発言収録)。
 - 51 報告「原経済圏とエウレギオ」社会経済史学会近畿部会12月例会, 関西大学, 平成8年12月14日。
 - 52 報告「エウレギオと原経済圏」第66回社会経済史学会全国大会自由論題, 東北大学, 平成9年5月31日。
 - 53 コメント ニッ石郁夫報告「ドイツ地域経済の史的形成をめぐって」土地制度史学会近畿部会例会, 京都大学, 平成9年6月21日(三-19参照)。
 - 54 コメント「若下の回顧的注釈」経済史研究会第2回研究大会シンポジウム「経済史学の総括と展望-大塚史学を中心にして-」, 京都大学, 平成9年9月6日(三-18参照)。
 - 55 報告「国境を挟む地域間協力-エウレギオと日韓海峡経済圏-」第105回国際経済動態研究センター研究会, 名古屋大学, 平成9年12月5日。
 - 56 報告「ヨーロッパにおける社会変容と海」社会経済史学会第67回全国大会パネル・

ディスカッション「近代世界の形成と海—海からの歴史像の試み—」, 学習院大学, 平成10年6月7日。

- 57 共同司会(浜田正行と)およびコメント 西洋史研究会1998年度大会共通論題「ヨーロッパ統合の歴史的位相」, 東北大学, 平成10年11月15日(『西洋史研究』新輯第28号, 89-165ページ)。
- 58 代表挨拶・報告「型の崩壊か、それとも型の試練か?—日韓同時不況を考える—」 京都大学経済学研究科・ソウル大学校経営大学・ソウル大学経済学部共同学術セミナー, 共通論題「東アジアの発展モデルと経済危機」, ソウル大学, 平成10年12月14-15日(日本側代表:渡邊尚)。
- 59 問題提起「地域統合の歴史的諸形態」社会経済史学会第68回全国大会共通論題(組織者:渡邊尚), 京都大学, 平成11年5月30日。
- 60 代表挨拶・報告 Internationale Konkurrenz, Globalisierung und Mechanismen der Krisenausweitung—Ist die Gleichzeitigkeit der Krisen in Japan und Korea ein Zufall? Geschichtliche Gegebenheit als ein destabilisierendes Element— Die 12. Deutsch-Japanische Wirtschafts- und Sozialtagung (Leitthema: Globalisierungsprozesse und regionale Dynamik), Bochum, 19-22. November 1999. (一-7参照。日本側代表:渡邊尚)。
- 61 報告「越境する地域—エウレギオと原経済圏—」ドイツ資本主義研究会(第2次)第44回例会, 立教大学, 平成11年12月12日(『ドイツ資本主義研究会会報』Nr. 22, 平成12年11月, に要旨掲載)。
- 62 報告“Can We Learn from the Experiment for Cross-border Regional Cooperation in Europe?”, The Professor Han-yu Chang Memorial Conference, National Taiwan University, Taipei, 26-27. March 2000.
- 63 共同司会(湯沢威と)「EU 経営史の提唱」経営史学会第36回全国大会パネルⅡ, 成城大学, 平成12年9月24日。
- 64 報告〔予定〕“Euregios und Urwirtschaftsräume”, Die 19. Arbeitstagung der Gesellschaft für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte, Aachen, 18-21. April 2001.

七 随筆・小文

- 1 “Ein Gespenst geht um in Europa—das Gespenst Japans” (Köln-Rodenkirchen, 2. Juni 1969). *DER SPIEGEL*, 22/1969 の“Grausam, aber gut”という見出しの日本に関する偏見に満ちた記事に対し, 滞在中のケルンから長文の批判的投書。同誌 Nr. 24/1969 の投書欄に冒頭部分が掲載される。
- 2 「『遠い国』から(1)」*ORGAN*, Nr. 4, ADWG, 昭和45年。
- 3 「『遠い国』から(2)」『経友』東京大学経友会, No. 55, 昭和45年4月, 84-92ページ。
- 4 「松田先生と自動車と南ドイツ」*BOTSCHAFT*, Nr. 18 「松田先生の遷厝を記念して」東京大学経済学部松田ゼミナール, 昭和47年2月, 51-55ページ。
- 5 「『遠い国』から(3)」*ORGAN*, Nr. 5, ADWG, 昭和48年11月, 5-13ページ。

- 6 「わたしの女性論」『学生論叢』京都大学経済学部学生学会, 第18号, 昭和52年2月, 50-51ページ。
- 7 「『ファウスト』と『資本論』—はじめに救済ありき—」『UP』東京大学出版会, 第69号, 昭和53年7月, 1-5ページ。
- 8 「続・『ファウスト』と『資本論』—はじめに救済ありき—」『UP』東京大学出版会, 第70号, 昭和53年8月, 6-11ページ。
- 9 「サイナラをもう一度」『経済学批判 6』社会評論社, 昭和54年4月, 1-4ページ。
- 10 Friedenswillens wegen isoliert (Bonn-Ippendorf, 24. Juli 1986). *DIE ZEIT*, Nr. 19/1986 に掲載された "Im Erfolg isoliert" と題する Helmut Schmidt の日本に関する論評に異論を唱えた長文の投書。Schmidt から, 貴台の批判のいくつかを受けられるという同年9月3日付けの返書が届く。
- 11 「王様の出番」『京大広報』(『洛書』筆名: 三面鏡子), No. 413, 平成3年7月。
- 12 「ビッグ イズ ビューティフル」『京大広報』(『洛書』筆名: 同上), No. 431, 平成4年6月。
- 13 「空似の資本主義—日本, アメリカ, ヨーロッパ—」『京大広報』(『京都大学市民講座』「かたち」講演要旨(その1)), No. 440, 平成5年1月, 472ページ。
- 14 「針貝さんの思い出」(針貝信子追悼集編集委員会編『茜の空へ—針貝信子追悼集』) 平成5年8月, 213-220ページ。
- 15 「IV 論文入試制度の成果と課題」(京都大学経済学部論文入試調査委員会『総合力と創造力を求めて—京都大学経済学部論文入試の成果と課題—』) 平成6年3月, 78-91ページ。
- 16 「お休みなさい, 松田智雄先生」『経友。(松田智雄先生追悼) 東京大学経友会, No. 135, 平成8年6月, 21-29ページ。
- 17 「答える前に, 問え」『経済学を学ぶために(平成10年度)』(学部長巻頭言) 京都大学経済学部・経済学研究科, 平成10年4月10日, 1-5ページ。
- 18 「50周年を迎えて」『軽井沢夏期大学50周年記念誌』軽井沢町教育委員会軽井沢夏期大学事務局, 平成11年2月, 9-13ページ。
- 19 「比較地域史の構想—『ヨーロッパの発見』を編集して—」『書齋の窓』有斐閣, No. 505, 平成13年5月刊行予定。

八 講演

- 1 「地域を考える—日本とヨーロッパの空間構造の対比—」関西大学商学部ゼミナール協議会主催時局講演会, 関西大学商学部, 昭和52年10月14日。
- 2 日普修好通商条約締結120周年記念資料展示会開会式講演, 大阪神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事主催, 神戸「ラインの館」, 昭和56年2月20日。
- 3 「日独関係をふり返って—日普修好通商条約締結120周年を記念して—」佐賀大学経済学部, 昭和56年11月16日。

- 4 「中部ヨーロッパの産業革命—A. トインビー没後100年によせて—」筑波大学第一学群社会学類, 昭和58年12月3日。
- 5 “Charakteristika der japanischen Wirtschaftsgeschichte im Vergleich zu der Deutschen” Ahaus/Westfalen のロータリークラブでの講演, 昭和61年9月。
- 6 「二つの南北較差—ドイツの現状とヨーロッパ経済—」関西 DAAD 友の会, 大阪ドイツ文化センター, 平成2年4月14日。
- 7 「消費, 文化, 資本—体制競争はどのように変わるか—」第44回軽井沢夏期大学, 軽井沢町中央公民館, 平成4年8月3日。
- 8 「空似の資本主義—日本, アメリカ, ヨーロッパ—」京都大学市民講座「かたち」, 京都大学法経第四教室, 平成4年10月31日(七-13参照)。
- 9 「西ヨーロッパ統合とドイツ統一」商工中金京都ユース会総会記念講演, 京都銀行協会, 平成5年2月22日。
- 10 「ヨーロッパ統合と関税同盟」第45回軽井沢夏期大学, 軽井沢町中央公民館, 平成5年8月4日。
- 11 「ヨーロッパ統合の歴史的意味」平成5年度千葉大学法経学部リカレント教育講座プログラム「1990年代の国際政治と経済」, 千葉大学法経学部, 平成5年11月27日。
- 12 「ヨーロッパの河, ドイツの河—ライン河の政治・経済史」第46回軽井沢夏期大学, 軽井沢町中央公民館, 平成6年8月2日。
- 13 「ヨーロッパの山, スイスの山—アルプス山系の政治・経済史」第47回軽井沢夏期大学, 軽井沢町中央公民館, 平成7年8月3日。
- 14 「日本の鉄道は何を創り出したか—現代旅客輸送の日欧比較—」西日本旅客鉄道産業労働組合主催シンポジウム「JR 西労組10年目の検証—21世紀への新たな出発」吹田市文化会館メシアター, 平成8年4月1日。
- 15 「日本の首都, ドイツの首都」第48回軽井沢夏期大学, 軽井沢町中央公民館, 平成8年8月2日。
- 16 「エウレギオと補完性原則—越境する地域, 後退する中央—」京都大学経済学部同窓会大阪支部総会学部長講演, ガスビル, 平成11年1月22日。
- 17 「EU における地域政策の潮流—越境する地域, 後退する中央—」日本政策投資銀行・日本経済研究所主催第一回政策銀フォーラム, 名古屋タワーズプラザホール, 平成12年10月16日(四-13参照)。